

1 学年 総合的な探究の時間 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	社会見学	生 徒	1年生徒23名
		場 所	視聴覚室
日 時	令和元年10月10日(木)3、4校時	指 導 者	T1:工藤 T2:石川 T3:石田 T4:成田 T5:佐野

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・働く姿を想像して質問を考えたり、就労先を見学したりすることで、将来の進路に対するイメージをもつことができる。
- ・集団行動のルールやマナーを学び、活動の場で生かすことができる。
- ・見学先で学んだことを仲間と協力して話し合い、まとめることができる。

(本時の目標)

- ・社会見学で学んだことを振り返り、自分の意見を発表することができる。
- ・役割を決め、協力しながら活動することができる。
- ・卒後の進路について、自分の考えや、現在の課題について考えることができる。

2 生徒について

- ・話し合って意見を発表する活動は、何度か経験しており、まとめることができるようになっていいるが、教師の支援を必要とする生徒がいる。
- ・自分の意見を文章に書き出すことができるようになってきている。
- ・分からないことを相談したり、質問したりすることができない生徒が数名いる。

3 単元における「主体的・対話的で深い学び」の各目標とねらい

(主体的な学び)

目 標：自分の意見を書いたり、伝えたりすることができる。

ねらい：社会見学で学んだことや感じたことを整理する。

(対話的な学び)

目 標：役割を決め、協力しながら活動することができる。

ねらい：決められた役割を、声を掛け合いながら協力して行うことができる。

(深い学び)

目 標：卒後の進路について、自分の考えや、課題克服に向けてどのように取り組んでいくかを記入することができる。

ねらい：就労に向けて、自分の課題を見つめ直し、普段の学校生活で意識して取り組む。

4 指導計画

第1回 10月 3日 : オリエンテーション【主・対・深】

第2回 10月 4日 : 社会見学事前学習【主・対】

第3回 10月 9日 : 社会見学【主・対・深】

第4回 10月10日 : 社会見学事後学習(本時)【主・対・深】

第5回 10月11日 : まとめの学習【主・対】

※ 授業を振り返って

生徒の活動時間を十分確保することができず、発表するだけとなってしまう、指導案どおりに終わらせることができなかった。発表内容を聞いてメモをとらせたり、さらに話し合わせたりすることで、もっと内容の深い、振り返りの学習に繋がると感じた。今後は生徒の実態や活動する内容も考慮しながら、教材作りや授業展開の流れを考えていく。

別紙 1 - 2
5 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 10 分	・挨拶 ・振り返り ・本時の内容 ・本時のルール	・指定された生徒が挨拶をする。 ・<u>社会見学の写真を見ながら振り返りをする。</u> ・本時の内容を確認する。 ・本時のルールを確認する。	・正しい姿勢かどうかを確認する。 ・挨拶をする生徒を指定する。 ・写真を映して振り返りをさせる。 ・本時の学習内容を伝える。 ・本時のルールを伝える。	・正しい姿勢であるか確認する。 ・生徒の様子を観察する。	・パソコン ・プロジェクター ・パソコン ・プロジェクター
・話をしている人の方を向いて聞く。 ・発表する人は、聞こえる声で発言する。 ・分からないことは質問する。 ・役割分担をして活動する。 (司会、ホワイトボードに書く人と持つ人、発表する人)					
展開 80 分	・八雲シンフォニーについて ・役割分担をする ・学級に分かれて発表 ・学級で出た意見を記入する	・<u>説明を聞き、配布されたプリントの質問に、しおりに書いたメモや、見学をして感じたことを記入する。</u> ・<u>誰がどの役割を行うか決める。</u> ・学級でグループになり、記入した内容を発表する。 ・ホワイトボードに、発表した意見を記入し、発表者も決める。	・プリントを配布し、記入の説明を行う。 ・役割を決めるよう伝える。 ・グループで発表することを伝える。 ・同じ意見には、正の字をつけることと、発表者も決めるよう伝える。	・質問されたときは対応する。 ・役割が決められたか確認する。 ・質問されたときは対応する。 ・質問されたときは対応する。	・プリント ・ホワイトボード ・マーカーペン

	・意見発表 ・他の学級の意見を見て、記入する ・トーヨー工業株式会社についてまとめる ・役割分担をする ・グループで発表 ・学級で出た意見を記入する ・意見発表 ・他の学級の意見を見て、記入する	・代表者はホワイトボードに書いた意見を発表する。 ・<u>ホワイトボードを他の学級に渡し、自分達にない視点や気付きを記入するよう伝える。</u> ・<u>配布されたプリントの質問に、しおりに書いたメモや、見学をして感じたことを記入する。</u> ・<u>誰がどの役割を行うか決める。</u> ・学級でグループになり、プリントに記入した内容を発表する。 ・ホワイトボードに、発表した意見を記入し、発表者も決める。 ・代表者はホワイトボードにまとめた意見を発表する。 ・<u>ホワイトボードを他の学級に渡し、自分達にない視点や気付きを記入するよう伝える。</u>	・代表者にまとめた意見を発表するよう伝える。 ・私語をせずに各自で記入することを伝える。 ・八雲シンフォニーと同じように、自分の意見を書くよう伝える。 ・役割を決めるよう伝える。 ・グループで発表することを伝える。 ・同じ意見には、正の字をつけることと、発表者も決めるよう伝える。 ・代表者にまとめた意見を発表するよう伝える。 ・私語をせずに各自で記入することを伝える。	・発表者に姿勢を向けているか確認し、必要があれば指導する。 ・私語をせずに記入しているか確認し、必要に応じて指導する。 ・質問されたときは対応する。 ・役割が決められたか確認する。 ・質問されたときは対応する。 ・質問されたときは対応する。 ・発表者に姿勢を向けているか確認し、必要があれば指導する。 ・私語をせずに記入しているか確認し、必要に応じて指導する。	・ホワイトボード ・マーカーペン ・ホワイトボード
整理 10分	・まとめ	・<u>一般就労か福祉的就労のどちらを希望しているか考えて記入する。また空欄に当てはまる言葉を考えて記入する。</u> ・<u>希望している職場で仕事をするために、今自分に足りない力を記入する。</u> ・次回の授業内容を知る。	・プリントに記入するよう伝える。空欄に当てはまる言葉については、少し時間をとって、考えさせる。 ・プリントに記入するよう伝える。 ・次回の授業内容を伝える。	・生徒が記入できているか巡視する。空欄の問題については、回答するまで生徒には伝えない。 ・巡視し、質問されたときは対応する。	・プリント ・プリント

	・挨拶	・指定された生徒が挨拶をする。	・正しい姿勢かどうかを確認する。 ・挨拶をする生徒を指定する。	・正しい姿勢であるか確認する。	
--	-----	-----------------	------------------------------------	-----------------	--

※「主体的・対話的で深い学び」の目標に関連する活動については、_____下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	社会見学	生 徒	1年生生徒 22 名
		場 所	視聴覚室
日 時	令和元年 10 月 10 日(木) 3、4校時	指 導 者	T1:工藤 T2:石川 T3:石田 T4:成田 T5:佐野
取り入れた目標	主体的な学び 対話的な学び 深い学び		

①取り入れた目標について

自分の意見を書いたり伝えたりすることで、それぞれがどんなことを感じ、学んだかのを書かせ、発表させることで、色々な気付きがあることを知る機会になったと考える。ただ、時間に余裕をもって活動させることができなかったため、沢山書いた意見の中から一番伝えたい内容を仲間に発表することで、時間に余裕をもちながら活動することができたと考える。

役割分担を行ったが、時間内に活動を終えられなかった。協力しながら、活動することを目標としていたが、達成感を感じさせることなく中途半端で終わってしまった。活動内容を再検討する必要があると感じた。

HR で考えた意見を基に、今後の進路に向けてどのように取り組んでいくのか考える時間を設定したが、一番深い学びになる部分が授業の中で出来ずに終わってしまった。生徒の実態を考慮した活動内容、時間配分を検討することが必要だと感じた。

②授業全体について

中途半端で終わってしまい、学びに繋がる学習にならなかった。特に、学んだことや感じたことをホワイトボードに書く作業では、全て書かせることにより時間配分が崩れ、次の活動に影響が出てしまった。全て書かせるのではなく、書いた中で、「これは仲間に伝えたい」ことを一つ選んで、書かせることで、余裕をもって活動できたのではないかと考える。

③今後の取り組みについて

一つの活動に余裕をもって取り組めるよう、活動内容や時間配分について考え直す必要があると感じた。余裕がない中での作業だったため、作業を終わらせることに重点がいきってしまい、学びに繋がらなかった。文章を書かせるのではなく、選択肢を用意し選ばせるなど、個人の学びになるように授業の進め方を見直していきたい。

授業参観者アンケート

「主体的・対話的で深い学び」についての評価
【主体的な学び】 ・グループワークの役割分担時、必要な役割をこちらで提示する前に生徒たちが考えてもよかったのではないかと感じました。 ・発表時は率先して意見を伝えようとしていたが、言葉遣いなど荒い部分もあった。 【対話的な学び】 ・グループワークの際、教師が介入しすぎていて、教師の言われたとおりに進めている印象を受けた。 →対話の場面を奪ってしまっている。 ・グループ活動では、役割を決めて活動を行っていたが、できている場面とできていない場面があった。 ・ST もグループ活動を支援し、話し合いがうまくいくようにしていた。 【深い学び】 ・他のクラスの発表により、「気付き」が多かったのではと思う。 ・社会見学をテーマにしている、タイムリーで生徒も取り組みやすかったと思う。
授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）
・授業のルールを今回設定していて良かったが、1つ目のルールの説明の仕方を発表時に限定するのではなく、MTが話をしているときなども含めて伝えることができればよかったのではないかと思います。 ・「書いた人顔を上げてください」→この言葉掛けを多くしている場面が見られたため、ルールの中でも「記入が終わったらペンを置く、手を止める」などのルールがあると、1回1回言う必要がないかもしれません。 ・STの動き→指導案には、質問されたら答えるとあったが、質問を受ける前に言葉掛けをしてしまっている様子があった。→生徒の質問する機会を奪ってしまっている。 ・展開の中で、意見発表とボード記入を別にした意図があれば教えていただきたいです。→最終的に時間がなくなってしまったので、工夫が必要だと感じました。 ・MTが全体指示や説明をしているときに、生徒の大半が違うことをしている場面があった。→STの役割として盛り込んだり、MTが指導したりしないと定着しないように感じます。 ・MTがグループワーク時に巡回をもう少ししてもよいと感じます。→場所によっては教師が主になって行っている場所もあったため、任せることと自由にしてもらうことは別かと思います。 ・生徒の発表時のMTの立ち位置を考えられるとよいかと思います。発表の前に「話をと聞く」と伝えているのであれば、MTは生徒の視線を見ることが出来る場所にいると分かりやすいかと思います。 ・もう少しゆとりをもってゆったりやるともっと良くなると思います。しかし、限られた時間の中で

2つの見学先をまとめるのは大変だったと思います。

- ルールを提示していたが、時間が経つにつれて薄れていっているように感じたので途中で確認しても良いなと感じた。
- 各グループが終了して、待ち時間が出来ていてMTも終わった所を一回見に行くと良いと感じた。
- 活動が曖昧になっていたこともあり、別々の活動をしているグループがあった。
- 時間の設定したことで、発言する人が限られ、生徒が焦って活動していたように感じた。
- 発表する場所によってホワイトボードが見えなくなっている場面があったので、全員が見やすい場所で発表してもいいと感じた。
- グループ活動を行うのであれば、始めから席が分かれていた方が余裕ができたように感じます。

2 学年 生活単元学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	進路の学習②	生 徒	2年生徒 23 名
		場 所	視聴覚室
日 時	令和元年9月9日(月)3～4校時	指 導 者	T1:高山 T2:山本 T3:津村

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・正しい知識を学び、資料にまとめることができる。(知識・技能)
- ・進路選択に向けてこれから取り組むことを考え、必要な手立てを選択し、行動することができる。(思考・判断・表現)
- ・適切な集団行動やマナーについて考え、行動することができる。(学びに向かう力)

(本時の目標)

- ・これまでの学習を振り返り、グループの意見をまとめることができる。(知識・技能)
- ・テーマについて考え、自分の意見を書き出したり、伝えたりすることができる。(思考・判断・表現)
- ・自分にはない視点や気づきをメモすることができる。(学びに向かう力)

2 生徒について

- ・ワークショップや話し合い活動は多く経験しており、教師の支援がなくとも、話し合ったり、意見をまとめたりできるようになってきた。
- ・自分の意思をはっきり伝えることができる生徒が大半であるが、数名の生徒は自分の意見を書いたり、伝えたりすることが苦手である。
- ・分からないことを相談したり、質問したりすることができない生徒が数名いる。

3 単元における「主体的・対話的で深い学び」の各目標とねらい

(主体的な学び)

目 標： テーマについて考え、自分の意見を書き出したり、伝えたりすることができる。

ねらい： ハローワーク研修で学ぶ前に自分の考えを整理する。

(対話的な学び)

目 標： これまでの学習を振り返り、グループの意見をまとめることができる。

ねらい： 話し合い活動を通して、意見を伝えたり、聞いたりすることで考えを整理する。

(深い学び)

目 標： 自分にはない視点や気づきをメモすることができる。

ねらい： 様々な観点から物事を捉えられるようにする。

4 指導計画

- 第1回 9月2日 : オリエンテーション 【 主 】
- 第2回 9月9日 : ハローワーク研修事前学習（本時）【 主・対・深 】
- 第3回 9月10日 : ハローワーク研修 【 深 】
- 第4回 9月11日 : 施設見学事前学習 【 主・体 】
- 第5回 9月12日 : 施設見学 【 深 】
- 第6回 9月18日 : ハローワーク研修および施設見学事後学習 【 主 】

※ 授業を振り返って

ハローワーク研修の事前学習として本時を計画したが、授業時間の見通しが甘く、時間が足りなくなってしまった。その背景として、入学してから話し合い活動を多く行ってきたことで、話し合いがスムーズに行うことができ、活発な話し合い活動になったことも要因の一つとして考えられる。

今後、このような学習に取り組む際には、時間にゆとりをもって計画する。

5 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 10 分	- 挨拶 - 振り返り - 本時の内容 - 本時のルール	- 指定された生徒が挨拶をする。 - 前時の振り返りをする。 - 本時の内容を確認する。 - 本時のルールを確認する。	- 挨拶をする生徒を指定する。 - 前時までの学習を口頭で伝え、振り返させる。 - 本時の学習内容を伝える。 - ワークショップ - 発表 - 本時のルールを伝える。 - 話を最後まで聞き、分からないことは質問する。 - 自分の考えを書き出したり、伝えたりする。	- 机上が整理されているか、姿勢を正しているのか確認する。 - 生徒の様子を観察する。	- パソコン - プロジェクター
展開 85 分	ワークショップ	<u>6 グループに分かれ、ハローワーク研修で学習する内容を事前に考え、自分たちの考えをまとめる。</u>	「企業が求める人材（K J 法）」、「早期離職の理由と対策（マトリクス法）」でまとめることを伝える。	机間巡視し、質問されたときに対応する。5 分程時間が経過しても書き出せない生徒がいる場合には、活動に取り組むよう促しをする。	- 模造紙 - 付箋 - ペン

	・ 発表	・ 協議した内容を発表する。 ・ <u>模造紙を掲示し、自分にはない視点や気づきをメモする。</u>	・ 「企業が求める人材（K J 法）」のワークショップが終了したら、5分間の休憩を取る。 ・ 1グループ2分程度にまとめ、発表を行う。 ・ 私語をせずに各自でメモをすることを伝える。	・ 休憩中の生徒の様子を観察する。 ・ T 2 は計時を行い、用紙に記入する。 ・ T 3、T 4 は発表の終えたグループの模造紙を壁に掲示する。 ・ 私語をせずにメモを取っているのかを確認し、必要に応じて指導する。	・ マスキングテープ ・ プリント
整理 5分	・ まとめ ・ 挨拶	・ 今後の行動に必要なことを知る。 ・ 次回の内容を知る。 ・ 指定された生徒が挨拶をする。	・ 「企業が求める人材」や「早期離職の理由と対策」について考えること、行動を変えることが大切であることを伝える。 ・ 次回は、9月10日（火）4時間目にハローワーク研修を実施することと、持ち物を伝える。 ・ 挨拶をする生徒を指定する。	・ 生徒の様子観察をする。 ・ 机上が整理されているか、姿勢を正しているのか確認する。	

※「主体的・対話的で深い学び」の目標に関連する活動については、_____下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	進路の学習②	生 徒	2年生徒 20 名
		場 所	視聴覚室
日 時	令和元年9月9日(月)3～4校時	指 導 者	T1:高山 T2:山本 T3:津村
取り入れた目標	主体的な学び 対話的な学び 深い学び		

①取り入れた目標について

本単元の目標及び全ての授業の目標を観点別に設定した。また、今年度の課題研修のテーマが「主体的・対話的で深い学び」であることから、本授業の目標と「主体的・対話的で深い学び」の観点と同じになるように設定した。全ての授業で3つの観点を取り入れることは難しいが、単元や学習内容に応じて設定できるということが本単元の計画でも可能であると感じた。

本授業での主体的な学びの目標については、授業のルールとしても生徒に伝えていたため、生徒それぞれが自分の意見を書き出したり、伝えたりすることができた。また、自分の意見を書き出すことができていたため、対話的な学びの目標についてもグループでのまとめの作業も話し合いが円滑に行われた。まとめの作業を行う中で発表練習も設定したが、ほとんどのグループが自分たちから声を掛け合い取り組むことができていたと評価できる。

深い学びについては、授業時間の確保の見通しが足りず、授業時間内で実施することができなかった。そのため、放課後や休み時間など授業時間外に自分にはない視点や気づきをプリントにメモをすることとなった。

②授業全体について

入学してきてから、自分の意見を書き出す機会や話し合い活動の場面を多く設定してきたことが成果として表れた授業になった。今までは、グループに教員が1名ついての学習を多く展開してきたが、本単元についてSTには巡回をしていただくことで、生徒主体の話し合い活動を進めることができるようになってきた。

本授業は学習内容が多く、2時間での設定は難しいものであった。本時のようにワークショップを行う場合は時間にゆとりをもって計画する。

③今後の取り組みについて

本時では、グループに教員1名が入る形ではなく、生徒から質問があったときのみ助言するという条件でSTに机間巡視を行ってもらった。以前よりも、自分から質問することができるようになっている。今後も継続して生徒からの発信ができるよう指導をする。また、生徒主体の授業づくりを行っていく。

授業参観者アンケート

「主体的・対話的で深い学び」についての評価
【主体的な学び】 ・各グループで個々の意見を出すことができていた。(テーマの内容に合っていた) それぞれが意見を言い、うまくまとめることができていた。 【対話的な学び】 ・自分にはない視点や気付いたことをメモ書きする生徒がいて良かった。 【深い学び】 ・個人の意見をグループでまとめることができていた。 ・指導計画が計画的に組まれており、単元の流れ、まとまりが生徒にとってわかりやすく深い学びにつながる学習だった。 ・これまでの生徒が取り組んできたワークショップの取り組みを活用しながら生徒が考えをまとめたり、発表したりすることで授業後に何が理解できたのかがわかりやすい取り組みだったと思います。
授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）
・発表した模造紙を貼り出し、生徒自身が他の取り組みのまとめを確認できるようにしているのはフィードバックとしてとてもよいと思いました。 ・全体的にワークショップに生徒が参加できていた。話し合い活動を多く経験している印象をもった。日頃の成果だと思います。 ・STの先生方の動きがよく、傍観者のようになっていなかったと思う。

3 学年 生活単元学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	社会人としての暮らし方② (金銭トラブル②)	生 徒	3 年生生徒 22 名
		場 所	視聴覚室
日 時	令和元年 12 月 24 日 (火) 3・4 校時	指 導 者	T1:海田 T2:福井 T3:田中 T4:矢倉

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・労働条件について知ることができる。
- ・社会人としてのルール、マナーがわかる。
- ・卒業後、社会人としての生活に興味をもち、自分の考えや意見を出すことができる。

(本時の目標)

- ・携帯電話の使い方や危険性について知ることができる。
- ・仲間と協力して携帯電話の失敗の原因や対策を考えることができる。

2 生徒について

- ・仲間と相談したり、協力して答えを導いたりすることができる。
- ・知識として理解できるが、実践することが難しい生徒が多い。
- ・社会のルールやマナーについて安易に考えている生徒がいる。

3 単元における「主体的・対話的で深い学び」の各目標とねらい

(主体的な学び)

目 標：自分の考えを端的に相手に伝えることができる。

ねらい：限られた時間の中で、相手に端的に伝えることにつなげる。

(対話的な学び)

目 標：仲間と話し合う中で、他人の意見を取り入れることができる。

ねらい：周囲の意見を聞き、様々な考えや発想を得ることができたり、視野を広げたりすることにつなげる。

(深い学び)

目 標：過去の事例を基に自分が起こりうる可能性について考えることができる。

ねらい：将来、携帯電話やクレジットカードを所持して失敗しそうな可能性を考えることで未然防止につなげる。

4 指導計画

第 1 回 12 月 2 日 : オリエンテーション、給料の使い方【対】

第 2 回 12 月 3 日 : ハローワーク【主】

第 3 回 12 月 9 日 : 振り返り、療育手帳について【対】

- 第4回 12月10日 : 基本的な労働条件について【主】
第5回 12月16日 : ネットトラブルについて【対】
第6回 12月17日 : 金銭トラブルについて【主・対】
第7回 12月23日 : 法律、社会人としてのマナー【主】
第8回 12月24日 : 金銭トラブルについて②（本時）【対・深】

※ 授業を振り返って

金銭トラブルに関する過去の卒業生の事例を基に、単元を組み立てていった。在学中であっても携帯電話でトラブルに遭っている生徒もいた。授業では危険性やトラブルに遭わないためにということは学習しているが、生徒本人が当事者としての意識が低い。その結果、被害に遭う人も出ていると感じた。そのため、3年生段階として自己理解を進めた上で、被害に遭う可能性について深く考えていった。そうすることでより現実的な予防策を考え、深めることができた。しかし、全ての事案に対する適当な未然防止策を考えるまでには至らなかった。そういった場合の相談窓口などを紹介するともっと良かったと感じた。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 10 分	- 挨拶 - 前時の確認	- 日直が挨拶をする。 - ワークシートで確認する。	- 日直に指示を出す。 - ワークシートを利用して確認させる。	- 気を付けをしているか確認する。 - プリントを出すよう言葉掛けをする。	ワークシート
展開 80 分	- 本時の確認 - 携帯電話の使い方について - クレジットカードの使い方について - 過去の事例について	- 本時の内容を確認する。 - 課金や電子決済の使い方について考える。 - グループで便利さや危険性を考える。 - クレジットカードの仕組みや使い方について学習する。 <u>過去の事例を基に、自分が被害に遭う可能性を考えていく。</u> <u>グループで意見を交流し、発表する。</u>	- PPTを利用して本時の内容を説明する。 - 便利さ危険性など使い方について問いかける。 - 時間を設定して、グループで意見交換させる。 - クレジットカードの使い方を説明する。 - 事例を基に生徒それぞれの可能性を考えさせる。	- PPTに注目するように促す。 - 生徒の様子観察をする。 - グループに入り、適宜助言する。 - 机間巡視して、理解できていなければ助言する。 - グループに入り、まとめたり助言したりする。	- PPT - ワークシート - クレジットカード - キャッシュカード - ミニボード - ペン

	・お金を借りるには	・こういった時にお金を借りるのか、また借りる上で大切なことを学ぶ。	・ローンを組む上で大切なことを伝える。	・生徒の様子観察をする。	
整理 10分	・本時のまとめ ・2学期のまとめ ・挨拶	・事例を基に携帯電話やスマートフォンの使い方を振り返る。 ・冬休みの過ごし方を知る。 ・日直が挨拶をする。	・携帯電話やスマートフォンの便利さ危険性を再度、伝える。 ・資料を利用して冬休みの過ごし方を確認する。 ・日直に指示を出す。	・生徒の様子観察をする。 ・資料を出して確認するよう指示を出す。 ・気を付けしているか確認する。	・ワークシート ・ハローワーク資料

※「主体的・対話的で深い学び」の目標に関連する活動については、_____下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	社会人の暮らし方（金銭トラブル②）	生 徒	3年生生徒 15 名
		場 所	視聴覚室
日 時	令和元年 12 月 24 日(火)3～4校時	指 導 者	T1:海田 T2:福井 T3:田中 T4:矢倉
取り入れた目標	主体的な学び	対話的な学び	深い学び

①取り入れた目標について

考える問題を出した際に、個人、集団という流れを統一して行った。自分の中で完結させるのではなく、相手に伝えるために端的にまとめることができる生徒が多くいた。また、その考える際には時間を設定したことで集中して取り組むことができていた。

意見をもって仲間と話し合うことで、生徒同士で「わかる」、「そうになってしまうよね」などの共感の言葉があり、仲間の意見を聞き入れることができていた。しかし、意見の交換の中で同じような意見が多く、様々な意見の中で視野を広げていくことはあまりできなかった。

事例を基に、生徒自身が起こしうる可能性について考えさせた。自分自身では良くないことと理解していても外部の関わりによっては金銭トラブルに遭ってしまうことを考えることができていた。しかし、確実な対応策があるわけではないため、対応の促しで終えてしまった。

②授業全体について

携帯電話・スマートフォンを所持している、していないによって生徒の学びに差があった。所持している生徒にとっては理解しやすい内容であった。しかし、所持していない生徒は可能性の話や想像で話をすることになってしまった。そのため、具体性や対策の話などは深まっていかなかった。代わりにゲームなどに絡めて話をしたが、更なる工夫が必要である。

また、内容を詰め込んでしまったためグループでの事例研究の時間を十分に確保することができなかった。内容を精査したり、進め方を改善したりするなどしなければならない。

③今後の取り組みについて

単元を進めていく中で、3年生段階として良い行動、良くない行動の判断はできている。そのため、自分が被害に遭ったり、トラブルを起こしたりするという前提で可能性や対策などを考えさせた。そうすることで今までよりも考えが深まった。事例を自分のこととして考えさせることができた。また、上記にも示したが、携帯電話・スマートフォンの所持や生活経験などによって理解度に差ができてしまった。その差を少なくするために、本時の前段で携帯電話・スマートフォンの学習をしたり、単元を組み替えたりするなど計画段階で検討が必要である。

授業参観者アンケート

「主体的・対話的で深い学び」についての評価
【対話的な学び】 グループ活動では、生徒それぞれが自分の意見をもち考えていた。 【深い学び】 ・授業をとおして今後の携帯電話やスマートフォンの使い方や危険性を様々な視点から知れていた。 ・話しやすい雰囲気作りをしてからの活動であったため、生徒はスムーズに取り組むことができていた。(仲間同士での問いかけがしっかりできていた)
授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）
・授業の大まかな流れが簡潔で分かりやすかった。 ・授業の構成が細かったことで、生徒が集中して授業に取り組むことができていた。 ・生徒の回答や意見などに対して、一言やMTの意見を入れて答えていてよかった。 ・MTの良さが出ていて、とても受けやすい授業でした。 ・PPの説明だけではなく、程よくワークシートに書き写す作業も組み込まれていて、集中しやすい授業でした。